

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会教育委員会議 (第2回)		
事務局 (担当課)		生涯学習課 電話042-769-8287 (直通)		
開催日時		令和7年9月8日(月) 午後1時30分～午後4時30分		
開催場所		相模原市役所 職員会館 検診室1		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	9人		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題 等		1 あいさつ 2 報告事項 (1) 相模原市社会教育委員会議研究調査報告書に関する活動事例ヒアリングについて (2) 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会第5回研究部会について (3) 令和7年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会について 3 議題 (1) 研究大会分科会まとめフォーマット(小委員会案)について (2) その他 4 その他		

議 事 の 要 旨

1 あいさつ（秦野議長）

2 報告事項

(1) 相模原市社会教育委員会議研究調査報告書に関する活動事例ヒアリングについて

（秦野議長）

6月20日にサーラの関係で小林委員に事例の発表をしていただいた。簡単に小林委員から説明をお願いしたい。

（小林委員）

相模原市特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら（サーラ）は、男女共同参画社会の実現を目的としてつくられた団体であり、相模原市の男女共同参画推進センターの指定管理、管理運営など受け持っている。18の団体と約90名の個人の団体、約100名を超えるメンバーで構成されており、「一人ひとりが自分らしく生きる社会の創造」を大事にしている。主な活動の柱は、センターの管理運営事業や男女協同参画への意識啓発事業であり、その他神奈川県や相模原市からの委託事業を行っている。

サーラはただ集まって同じ事業を同じように展開するということを2021年度まで行っていたが、22、23年度から自分たちが主体となって動き、意識啓発していこうという組織に活動方針を変えた。2023年度は、「エンジョイ多様性」をテーマにし、2025年度は「はて？から紡ぐ私たちの物語」をテーマに活動した。社会に潜む無意識の差別の話題が自然と出てしまうが、そういうアンコンシャスバイアスについてもきちんと、自分・他人を見つめながら、理解していこうという狙いがある。

参加者は地域住民、学生、ハンディキャップを持っている障がいをお持ちの方々などの多様なバックグラウンドを持っており、15名ほどが参加して活動を行った。私は外から演劇の様子を見ていたが、参加者の表情がだんだんと明るくなっていくのを感じた。

スペシャルオリンピックスのスピードスケートで日本代表を務めたダウン症の「さゆりさん」にも、参加をしてもらい、「なぜ障がいのある人が、障がいのある子に教えてはいけないのか」といった声をいただいた。障がい者を保護の対象とするのではなく、人権の主体として扱うということがこの演劇の中心にあり、社会的バイアスによって見えない存在になっている人達が、見える存在になっていくことにもつながってくるだろうという視点もあった。演劇というのは、一人ひとりの違いは必ずしも、見た目だけではわからないので、想像力を働かせて違いを見ようとするといったような、多様性を尊重する姿勢が出てくるのではないかと話題にあがった。自分がどういう存在なのかを知るためには、他人の存

在が必要で、こういう人が自分を認めてくれるのだと知ること、自分の存在の大切さに気づくのだと思った。

各委員からの質問で、省察すると辛くなってしまうことがあるのではないかとあった。これに対する「話して受け止めるという関係をまず作るとある」という回答に、私は疑問が残っており、そのように伝えたところ、これから参加者に詳しく聞いていくとのこと。

そのほか、お客様は何人いらっしゃったのかと質問があったが、私自身この活動を広めていくためには、1番大切なことであると考えている。また、表現しても大丈夫だという関係を保証することがとても大事で、自分には自分の居場所があることがとても大切であると思う。

この活動で大事なものは、活動を通してどう認識・行動が変化してきたのか。意識改革が行動に結びつかないと、長続きしないというのが1つのテーマになっているのではないかと考える。

今は年1回活動を行っているが、あちこちで行われていく活動にするためには、将来を見通す力、デザイン力、経営力など、様々な力が必要になると我々は考えている。その意味で、社会教育委員との関りに触れられていないが、活動を拡大する中で、社会教育委員の存在意義が今後増してくるのではないかと感じている。

(秦野議長)

ヒアリング結果の記録をまとめる時に、小林委員の「これまでのやり方ではなく、こうした事業を23年度から展開していった」という発言を、記載書していただきたい。

質疑応答

(石川委員)

計画の段階から将来を見通す力やデザイン力などを社会教育委員として支援していければ、また違う形での展開ができるのではと思うが、どうか。

(小林委員)

社会教育委員の支援は必要と感じなかった。

(石川委員)

今までは、そこに社会教育委員が活動するようなことを担ってこなかったが、今後やっていくという展開を考えてみるのはどうか。こんな活動を社会教育委員としてはやったほうがいいのではないかなどを伝えても良いのではないか。

(小林委員)

考えてみる。

(秦野議長)

続いて、報告事項に書いていないが、本橋委員から先日前お話しいただいた事例のその後の進捗について、お聞きしたい。

(本橋委員)

私は相模女子大学の事務、公益社団法人さがまちコンソーシアムの事務局長をやっている。「もっと〇〇〇公民館」を拝見した時に、公民館は多くの可能性があるのにもったいないと思った。私はこれまでやってきた活動の中で、今まで公民館と関わっていないものを結びつけ、今までと違った関わり方をしてみてはと思い、大野南公民館と実験的な意味で関わらせていただいた中で、見えてきた部分があった。

1つ目は、大野南公民館と大学の共催で、文化講演会～江戸の戯作と「学び」-「べらぼう」な世界を支えたもの～を令和7年10月18日に開催することである。今までは、公民館からオファーが来たら講師を紹介して終わりであった。しかし、大学と公民館の対話を大切にすることで、会場、周知などそれぞれが役割分担を行い、合同で事業をやることになった。

2つ目は、さがまちコンソーシアムでの就職型ではないインターンシップである。働くことを学んだり、企業を知ったりして、色んなことを学生は学んでいる。地域に住んでいなくても、どこにどういう社会教育施設があるのかなどを知ってもらい、地域で活躍してもらえるような人になってもらいたいという願いがあり、大野南公民館でのインターンシップが実現できたらなと思っている。

それ以外に、公民館で若者講座の準備員の募集で声をかけているが、例年集まらず困っていると話しがあったため、大学側が募集方法の工夫の仕方を教えるなどサポートを行った。

大学と公民館が対話を大切にしながら、若い人がたくさんいる公民館になればと思っている。

(秦野議長)

神奈川大学の社会教育主事課程の社会教育実習という授業で、相模原市の清新公民館にインターンシップを受け入れていただいているので、その時の資料があるかもしれない。

(本橋委員)

社会教育主事などの資格を取得する為の受け入れのためでなく、ちょっと地域に関心のある子たちが参加できるようなプログラムにしてほしいという要望があった。

(2) 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会第5階研究部会について

(秦野議長)

検討事項として、前日の準備、分科会の運営、シナリオなどの話し合いがされた。相模原市は第4分科会を担当、シンポジストとして渡邊委員に出ているので、報告する。

1日目の最後に会場にいる人で「ゆず」の栄光の架け橋を合唱することとなった。

シンポジウムについて、打ち合わせの途中経過をご報告願いたい。

(渡邊委員)

内容はまだ検討中。11月20日の午後2時20分から午後4時20分までの2時間で、4人の発言を回していくと、あっという間に終わってしまうとのことで、休憩なしで行うことになった。質疑応答に関しては、限られた時間の中で工夫する。私はアイスブレイクとして、音感ワークを取り入れることを提案した。音感ワークとは、参加者に拍手をしてもらって、参加者がいる場所を当てるというもの。視覚以外の感覚で、情報をキャッチしているというのを感じてもらう。

(秦野議長)

障がいのあるなしに関わらず、学び続け、自分の学びを広げているという観点から、シンポジストとしてふさわしいと思い、私から渡邊委員を推薦した。

そのほか、第4分科会・前日準備及び当日運営の協力について調整を行った。

本橋委員が諸事情のため退席。

次回10月に実行委員会があるので、詳細詰めたものをまた報告する。

(3) 令和7年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会について

相模原市からは8名の委員に参加していただいた。第1、2会場に分かれたので、それぞれの会場に参加した者から代表して報告をいただきたい。

○第1会場について (高橋委員)

・事例発表①海老名市

社会教育計画にて目標としている「子どもと大人が共に育つ社会の構築」を軸

に進められている取り組みについて、発表が行われた。計画では、「えびなっ子ふれあいフェスタ」、「えびなっ子いきいきシンポジウム」を通じて子どもの多様な体験を提供し、大人との交流を深めることで、地域の教育力を高めている。「えびなっ子ふれあいフェスタ」では、スポーツや文化体験を親子で楽しみ、「えびなっ子いきいきシンポジウム」では、子どもや指導者の声を交えた意見交換を実施している。社会教育委員は計画立案のみにとどまらず、事業に主体的に関わり、団体間の連携や、活動活性化にも繋がられた。

成果として、子どもと大人相互の繋がりが広がったが、今後は中高生や大学生も巻き込み、多世代との交流を強化することが課題とされた。

当日の質疑応答として、社会教育委員自らが実行委員になっており、フェスタやシンポジウムを行っていることについて、社会教育委員は施策や事業に対して助言・提言を述べるのが役割であるのに、どうなのかという意見が非常に多く寄せられた。これに対して海老名市は、よく調べてきますとのことなので、本番では修正をしていくと考えられる。

・事例発表②藤沢市

生涯学習推進計画「生涯学習ふじさわプラン2026」に基づく人材育成の取り組みとして、NPO法人藤沢市民活動推進機構が実施する、若者とNPOインターンシッププログラムの紹介が中心であった。当プログラムは2014年から実施され、若者が半年間地域のNPOや市民団体にて活動することで、社会参画意識を育み、次世代の担い手を育成することを目的としているとのこと。特徴は、若者が自ら考え・学び・進路を選ぶ力の習得、NPO組織基盤の強化、プログラムの他地域への展開である。事務局やOB、OGがサポートし、マッチングや定例会を通じて学業と両立しながら成長を支援するといった内容。集大成として、成果発表会を開催し、地域社会との繋がりを深めている。今後は、次期計画の策定に向けて、多世代に担い手を広げる検討を進めていくというような発表の内容であった。

当日の質疑応答として、社会教育委員は市の直営の事業についての評価・提言などを行うことが多い中で、どうしてNPOを発表の素材にしたのかという意見が多かった。回答としては、直接NPOを発表の場に出しているわけではなく、計画を作成し、その計画に基づいてNPOのやり方などを評価しているといった回答があった。その中で、どうしてNPOを選んだのかを最初に発表したほうが良いのではとなったため、修正される見込み。

・事例発表③真鶴町

発表テーマは「弱みを強みに！～小さな町の挑戦」。人口減少と少子高齢化が進む中、社会教育委員がつなぎ役となり、限られた資源を最大限活用し、必要なものは外部と連携しながら子供の健全育成を進めているといった内容。従来の社会教育委員が諮問答申を行う形式から、委員自らが事業に参加し、事業評価報告書を提出して改善提言を行う実践型へ転換しているとのことだった。地域資源を活かした陶芸教室や外部と連携したカヌー体験なども実施しているとのことだった。提言を通じて、高齢者介護予防教室で小学生が作った教材を活用するなど多様な成果を生んでいる。一方で、活動が地味で、住民に知られていない点が課題としてある。今後も現場主義、実践主義を基本に、町の規模を生かした地道で効果的な活動を継続して、地域の繋がりを広げていくこと目指しているといった報告であった。

当日の質疑応答として、社会教育委員が提言して行政がすぐにそれを実践できるという仕組みを教えてほしいとあった。これに対し、真鶴町は非常に小さい町で、社会教育委員と行政の関係が近いので、言えばすぐに改善してくれるといったところが良いと回答をしていた。

○第2会場について（中村委員）

・事例発表④川崎市

外国人の市政参加と日本語教育について、発表が行われた。導入としては、川崎市の説明が行われた。市内に人口が155万人おり、外国人比率が3.37%で5万人を超えている。日本で初めて外国人の代表者会議が設置され、市政に外国人の声を反映していくという機会を設けている。1980年頃に日本語学校の市民館を開設し、社会人学級として日本語学校を作っていく流れがあった。当時、中学校の先生がボランティアで180人、日本語の指導に参画された。日本語については、基本的人権の位置づけとして、日本語がわからないと共同に生活ができないということで協働学習を進めているという話があった。教育委員会にて当事者やボランティアとともに指針を策定し、ポータルサイトを開設、アンケートを毎日行うなど、ブラッシュアップをしている。成果としては、予算が多く取れたこと。また、ICTの活用が進んだこと。課題としては、人材の確保、ICTのニーズに応じた活用が必要であるということ。また、持続可能な体制づくりが必要であることなどを社会教育委員としては背負っている。

当日の意見として、アンケートの文字が小さく、見づらいことや、文字ばかりで、外国の方が日本語を勉強している映像や写真などがあると良いとあった。

・事例発表⑤茅ヶ崎市

テーマは共生社会の推進に向けて社会教育施設ができることということで、障がい者への理解促進にスポットを当てての発表であった。社会教育委員として、社会教育施設ができることについてアンケートをとった。そのアンケートの中で、公民館自体を知らないという人が多いことがわかった。社会教育委員として、この現状をどうしていくかについて考えることも大事だと話があった。茅ヶ崎支援学校と市内の公民館がコラボして、障がい者の居場所を設けた。

成果としては、公民館が人と人をつなぐ役割があることを再確認できたということと、学校自体も地域と共に存在しているということを再確認できたこと。

当日の意見として、教員だけの発表でなく、行政との協働の取組を示すと発表の説得力が増すとあった。

・発表事例⑥寒川町

子どもの未来を地域で育てるというテーマで、家庭教育支援への子どもへの学習機会の提供ということで、公民館事業と図書館事業の2つに分けて話がされた。寒川町の概要、社会教育委員の構成、公民館などについて話があり、具体的な活動内容の発表があった。その他、生涯学習の情報誌を年間発表している。

(秦野議長)

補足として、川崎市は行政の職員が発表し、日本語学習先進都市で、政策報告のようになってしまったので、社会教育的な動きがどこにあるのか見えづらかった。素晴らしい指針ができており、そのプロセスを教えていただくと社会教育の学びに繋がると思うため、当日教えていただきたいとお願いをした。

茅ヶ崎市に関しては、主事会があり、職員が、障がいのある方にもっと公民館を利用してもらうためには、もっと理解しないといけないということで、しゃべり場では保護者と社会教育施設の職員が実態を聞きながら、今後の事業に繋げるということになった。

3 議題

(1) 研究大会分科会のまとめフォーマット（小委員会）について

小委員会の議長の石川委員から、小委員会の報告があった。

(石川委員)

秦野議長から報告書のたたき台をいただいた。小委員会では、研究発表大会本番でどのようなテーマで聞き取りをしていくかというところを考えた。今回検討していただきたいのは、資料に示している8項目で良いのかというところ。

- ①事例に対する社会教育委員の関りについて
- ②行政との関り
- ③設立の経緯と組織。仕組みづくり
- ④継続の工夫
- ⑤代表者やメンバーが初期の人たちと替わった後の変化
- ⑥相模原に参考になりそうな点、生かせそうな点
- ⑦「もっと〇〇〇公民館」との関係が見いだせる点
- ⑧相模原で取り入れるには難しそうな点

(渡邊委員)

⑤「代表者やメンバーが初期の人たちと替わった後の変化」について、3・4・5のどの分科会の報告に当てはまるかを皆さんで確認したい。

あと6番と8番をセットにして、難しいから切り捨てるのではなく、相模原市に取り入れるときの課題を見つけるという方が良いと考える。

(秦野議長)

⑤については、該当する分科会の報告と該当しないところがあると思うので、該当した場合は、記入するという受け止めでよいか。

(渡邊委員)

良い。

(小林委員)

③、④、⑤がかなり重なっているような気がする。

(秦野議長)

まとめて書くことも良いと考える。小見出しをどうつけるかを皆で考えていった方が良いかと思う。分けておくことによって、③、④、⑤のどれかについてなら書けるという部分も出てくるかと思う。

一同賛成

(石川委員)

観点が多い方が、質問するとき積極的にできるのではないかと思う。

(秦野議長)

⑦の順番だけ最後にするのはいかがか。

一同賛成

(秦野議長)

事例発表については、見開き2ページで作成していきたいと考えている。小委員会で整理をして、原物に近いものを次回までに作成したい。研究調査報告書の全体の構成については、皆さんと一緒に考えていきたいと考えているので、次回までに送らせていただく。

(2) その他

(高橋委員)

神奈川県以外の発表データはいつ頃もらえるのか。

(事務局)

まだデータが集まりきっていないと県からは聞いている。

(秦野議長)

他自治体から発表の原稿が届いたらいただきたい旨を再度伝えるのと、届き次第皆さんにもお配りをしたいと思う。

4 その他

○情報提供「全国社会教育委員連合表彰について」

全国社会教育委員連合表彰として、金子委員が受賞されることが報告された。

研究発表大会の参加者が少ないため、各委員の知り合いなどにお声掛けいただけるよう事務局から協力を呼び掛けた。

○情報提供「淵野辺駅南口周辺まちづくり事業について」

事務局から事業の進捗状況等について情報提供を行った。

質疑応答

(渡邊委員)

アドバイザー業者と委託業者は別々にあるのか。その後、いろいろな民間事業者が関わっていくという認識でよいか。

(事務局)

アドバイザー業務を委託している事業者と、今後、整備・運営事業を進めて

いく事業者は別である。アドバイザー業務委託というのは、整備・運営を実施する事業者を選定するための資料作成や、助言をいただく等の役割がある。

(渡邊委員)

例えば、アドバイザー事業者と社会教育委員で、意見交換や協議をさせていただくような機会があると、今後の市の事業展開につながると思う。

(事務局)

現時点では、アドバイザー業務委託事業者との意見交換の場を設ける予定はない。ただ、今後どのようにして社会教育委員の意見を反映していくか検討していく。

(安西委員)

この複合施設は建物が1つで、公民館、まちづくりセンター、青少年学習センターなどを分けて中に作るという考え方で良いか。

(事務局)

1つの建物の中に6施設を完全に分けるのではなく、それらをうまく融合させながら、施設間で連携を取れるような配置を検討している。

(安西委員)

1つ気になるのは、複合施設内の各施設がイベントをやる時に、時期などが重なってスペースが不足するのではないかと懸念している。また、本市の公民館は地面に接して建っているのが基本だと認識しているが、橋本公民館は建物の上階に作ったため、他の公民館と違うという話を聞いた。そのため、複合施設でも同様に、他施設との兼ね合いや使い勝手に影響が出るのではないかと気になった。

(若林委員)

他市では、多世代の循環ができるような複合施設ができているので、相模原市も公民館は公民館ではなくて、中の人々の循環ができて、多様な人が交じり合うような施設が必要だと考える。

(秦野議長)

場所の取り合いがないよう、今後方法を見つけていくと思う。

今後社会教育委員として、どういう形で考えを整理することや、意見を伝えていくかについては、今後の研究調査にも関わるところだと思うので、検討させて

ほしい。

秦野議長の挨拶で会議を終了した。

以 上

令和7年度 第2回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	永月 徹	相模原市立小学校長会		出席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中村 岳彦	相模原市P T A連絡協議会		出席
4	伊藤 孝久	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	長沢 亜希子	こみかる・きっず相模原		出席
7	若林 由美	一般社団法人 こども家族早期発達支援学会事務局長		出席
8	石川 利江	学識経験者（桜美林大学教授）		出席
9	秦野 玲子	学識経験者（RE Learning代表）	議長	出席
10	本橋 明彦	学識経験者（（学）相模女子大学事務局長 （総務担当理事））		出席
11	小林 政美	学識経験者（特定非営利活動法人男女共同参画 さがみはら 副代表理事）		出席
12	高橋 修一	公募		出席
13	渡邊 健一	公募		出席
14	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク		出席